

本科 1 期 7 月度

解答

Z会東大進学教室

## 慶大小論文



## 【添削課題】

出典…慶應義塾大学・総合政策・03年・改

## 解答

問1

## 【文章例①】

語りかける相手の国の人々として、私は中国人を選ぶ。以下の理由による。

第一に、中国は現在、新渡戸や内村が活躍した時代の日本と同じく、近代化の実現に努力している。日本の武士道のように、中国にも儒教がある。新渡戸が日本について分析するような、伝統の基盤の上に立った近代化を考える際、中国人は日本を参考にできるのではないか。また、近代化は市民一人ひとりの地道な努力があつてはじめて成功する、ということを示唆する内村の主張も中国人の参考になりうる。中国は近年高成長を続けるが、市民の努力抜きに国の発展はありえない、というメッセージを中国人は読み取ることができるのではないだろうか。

第二に、中国は現在、環境問題を抱える。大気汚染などと並んで、土壤汚染も深刻であると聞く。土地と向き合った二宮尊徳の精神は、中国人の人にも参考になる普遍性を持つているのではないか。

第三に、中国は現在、すでに大国である。明治期に新渡戸や内村は、大国になりつつある米国に語りかけたが、私たちは今、大国としての地位を確立しつつある中国に語りかけるべきであると考える。

## 【文章例②】

中華人民共和国は、一九七八年に鄧小平が実権を掌握し経済開放政策を推進した。鄧小平には「白い猫でも黒い猫でも、ねずみを捕まえてくれるのがいい猫だ」という言葉がある。経済を発展させ、国民生活を豊かにするものであれば、資本主義の制度でも積極的に

これを取り入れるべきだ、というのである。この経済開放路線は鄧小平の死去の後も、今日に至るまで同国的基本政策となつてゐる。この結果、中華人民共和国の国民生活は都市部住民を中心として着実に向上を続けている。しかし、それと同時に貧富の差は大きく拡大し、精神的な理念は見失われ、物質的価値ばかりを重視する風潮が顕著になりつつあるという。日本と中華人民共和国とはアジア全体の発展のために中心的な役割を果たす立場にある。だが、アジア諸国のリーダーシップを担うためには経済力だけでは不十分だ。日本は経済的発展のみを重視して、内面的価値を軽視する社会になってしまったことで、国際社会の高い信頼と尊敬を得られずにいる。それゆえ私は、現在高度成長期の只中にある中華人民共和国が日本の轍を踏むことのないように、中国の人々に向けて日本の社会のこれまでの経緯を伝えようと考えたのである。

※解説は次章にて扱います。

## 【添削課題】

出典…慶應義塾大学・総合政策・03年・改

## 解答

問1（再掲）

## 【文章例①】

語りかける相手の国の人々として、私は中国人を選ぶ。以下の理由による。

第一に、中国は現在、新渡戸や内村が活躍した時代の日本と同じく、近代化の実現に努力している。日本の武士道のように、中国にも儒教がある。新渡戸が日本について分析するような、伝統の基盤の上に立った近代化を考える際、中国人は日本を参考にできるのではないか。また、近代化は市民一人ひとりの地道な努力があつてはじめて成功する、ということを示唆する内村の主張も中国人の参考になりうる。中国は近年高成長を続けるが、市民の努力抜きに国の発展はありえない、というメッセージを中国人は読み取ることができるのでないだろうか。

第二に、中国は現在、環境問題を抱える。大気汚染などと並んで、土壤汚染も深刻であると聞く。土地と向き合った二宮尊徳の精神は、中国人にも参考になる普遍性を持つているのではないか。

第三に、中国は現在、すでに大国である。明治期に新渡戸や内村は、大国になりつつある米国に語りかけたが、私たちは今、大国としての地位を確立しつつある中国に語りかけるべきであると考える。

## 【文章例②】

中華人民共和国は、一九七八年に鄧小平が実権を掌握し経済開放政策を推進した。鄧小平には「白い猫でも黒い猫でも、ねずみを捕

まえてくれるのがいい猫だ」という言葉がある。経済を発展させ、国民生活を豊かにするものであれば、資本主義の制度でも積極的にこれを取り入れるべきだ、というのである。この経済開放路線は鄧小平の死去の後も、今日に至るまで同国の基本政策となっている。この結果、中華人民共和国の国民生活は都市部住民を中心として着実に向上を続けている。しかし、それと同時に貧富の差は大きく拡大し、精神的な理念は見失われ、物質的価値ばかりを重視する風潮が顕著になりつつあるという。日本と中華人民共和国とはアジア全体の発展のために中心的な役割を果たす立場にある。だが、アジア諸国のリーダーシップを担うためには経済力だけでは不十分だ。日本は経済的発展のみを重視して、内面的価値を軽視する社会になってしまったことで、国際社会の高い信頼と尊敬を得られずにいる。それゆえ私は、現在高度成長期の只中にある中華人民共和国が日本の轍を踏むことのないように、中国の人々に向けて日本の社会のこれまでの経緯を伝えようと考えたのである。

## 問2

### 【文章例①】

国名 中華人民共和国

私は本日、「バランスが取れた近代化」をテーマにお話をします。日本人は一九世紀後半に近代化に着手し、二〇世紀には帝国主義列強間の二度の世界戦争、そして戦後の高度成長を経て現在に至っています。約百五十年の間に、アジアの模範と言われたこともあります。侵略の当事者となつて中国をはじめとする近隣諸国に筆舌に尽くしがたい被害を与えてしまったこともあります。そして戦後は経済成長を遂げたわけですが、この一五〇年間、日本人が幸せだったのか、疑問がないわけではありません。そこで、新渡戸稻造、内村鑑三の書物を参考しつつ、私たち日本人の経験（苦い経験も含めて）を語ることを本日のテーマとさせて頂きました。

さて、中国の皆さんには今、毎年七、八パーセントといった高い経済成長を経験しておられます。中国人の皆さんの努力と才能に、私たちは改めて驚嘆しています。

ただ、中国経済の高成長を見て思い出すのが、日本の戦後の経験です。日本も一九七〇年代までは高度成長を経験し、「ジャパン・アズ・ナンバーワン」（エズラ・ヴォーゲル）ともてはやされました。しかし、その副作用として公害問題、環境問題を経験しました。また、一九九〇年代にはバブル経済が崩壊しました。内村が描いた二宮尊徳のような、大地を耕し肥沃にしていく、という堅実な国民性が日本人にはあつたはずですが、自然を育むことを忘れた時代には国民の健康が脅かされ、額に汗して働くことを忘れると経済成長

は終わりを迎えました。

中国の皆さんには、私たちの経験を他山の石にして頂きたいのです。環境と近代化のバランス、堅実な労働と経済成長のバランスに配慮する哲学を、中国のさんは必ずや生み出されるであろうと私は確信しております。

さらに歴史を遡ると、日本は二〇世紀前半、アジアを侵略しました。新渡戸が言及する、武士道による「尊大なまでの自負心」がナショナリズムと絡み合い、第二次世界大戦を起こしてしまったのです。北京五輪と上海万博を経験し、中国のさんのナショナリズムが昂揚することが仮にあつたとすれば、ナショナリズムの行き過ぎで世界平和を攪乱した日本近代の歴史を少し、思い出してみてください。最後に指摘した問題は、ナショナリズムと国際親善のバランスの問題、と表現することができます。

### 【文章例②】

国名 中華人民共和国

近代の日本は、一貫して欧米諸国並みの経済的発展を目指してきた。明治政府の脱亜入欧政策はそのことを如実に示したものであるし、先の太平洋戦争にしても、日本の経済的土台を拡大して国家的繁栄を強固なものにしようという野望に基づいて始められたものであった。この無謀な戦争は当然の結果として悲惨な敗北に終わつたが、その後日本は奇跡的な復興を遂げ、一九六八年には資本主義国内第二位の国民総生産を達成するに至つた。こうして日本は近代化以降の「欧米諸国並みの経済的発展」という国家的悲願をついに実現したのである。

確かに「富」はきわめて大きな価値を有している。個人生活のレベルにおいても、まず一定の経済的基盤が確保されていなければ、人間的な生活を送ることはできない。今日の食事にも事欠くようでは、学問や仕事に専念することもできないし、文化的活動に取り組む余裕も生まれてこない。その意味では、日本が貧困の問題を解消しようと努めてきたこと自体は誤りではなかつた。しかし、日本の社会が経済的価値の追求に専念してきたことで、国民の価値観も必然的に物質的・経済的価値のみを重視する方向に偏つてしまふことになつたのである。

日本の「拜金主義」的傾向は、すでに高度成長期の頃から諸外国によつて「エコノミック・アニマル」と揶揄されていた。「エコノミック・アニマル」とは「金儲け以外には何も考えていない動物」という意味である。この言葉は第二次大戦後激に国際社会での地位を高めてきた日本に対する感情的な反感がこめられたものもあるが、戦後の日本人の特徴を端的に言い当てたものもある。物質的な

富は大きな価値を持つている。だが、それが全てではない。物質的・経済的な豊かさを基盤に、人間はさらに内面的な豊かさの実現に向かうことが必要である。「人はパンのみにて生きるにあらず」ということだ。

しかし、残念ながら日本の社会は、まだこのことに十分気づいてはいない。仕事を通じて社会貢献をし、額に汗して働く人々よりも、パソコンによる株の売買で一攫千金を得た人物の方に社会的注目や評価が集まるのが現実である。日本は、いかにして物質的・経済的価値への偏執的執着を脱却し、より精神的な価値を正当に評価できる国家へと成熟していくことができるのか。これが、今日の日本国と日本国民に課せられた課題なのである。

## 解説

### 1 出題のねらい

受験小論文は、論理的思考力だけでなく、君たち受験生のコミュニケーション能力が問われる科目でもある。そのコミュニケーション能力とは何か。文章読解力を「受信力」とするならば、文章表現力や論述力は「発信力」と言い換えることができるかもしれない。しかし、その「発信」は、大学側の人間（＝採点官）が読むとわかつている受験の答案の上だけで行うわけではない。日常生活では見知らぬ不特定多数の人々が自分の話を聞いているかもしれないし、また、君たちが一人前の社会人として働く場では必ずしも君たちに好意的な姿勢で話を聞いてくれる人ばかりがいるわけではなく、そういう人たちと商談をしたり交渉をしなければならない時もある。そのような「誰と、どのような状況で、何を目的とし、どういうことをどのように語つていけばうまくコミュニケーションが成立するのか」といったことを意識しながら論述させようとする出題が、時に受験小論文においても存在する。本課題はその一つと捉えてよいだろう。

本課題は、（欧米に限らない）外国の中から自分で一つを選択し、その国の人々を相手に、「現在の日本」について優れたところや悪いところ、問題点等を、具体的な事例に即して「語る」（説明する）ということを求められている。その国と日本との関わりが今どうなっているのかに合わせて、当然、「語る」内容が変わってくるし、そもそも、その相手（外国）の人々の視点を意識し、「日本」を対象化し、日本の今直面している問題や課題について考える必要が出てくる。「日本」について発信するには、発信できるほどに「日本」について知らなければならない……ということを実感させられる課題でもある。

**【提示資料に関する情報】**

▽提示されている二つの課題文の出典……

- ・新渡戸稻造著『武士道』（一九〇〇）の一部（原文＝英語）

- ・内村鑑三著『代表的日本人』（旧版一八九四、決定版一九〇四）の一部（原文＝英語）

▽この二冊の本が出版された時代背景について（＝日本が置かれていた状況）……

十九世紀末（＝明治維新から約三〇年あまり）の日本の近代化がようやく軌道にのり、新興国家として国際社会で頭角を現しつつあり、また、日清戦争から日露戦争にいたる頃

▽それらの本の読者について……

- ・当時の世界秩序を主導していた欧米諸国の人々

- ・アジアに生まれた新しい近代国家である日本に対し、好奇心と警戒感を持つていた。

▽二人の著者がその本を書いた意図と内容……

- ・意図＝日本がいかなる国であるのかを、欧米の読者に理解してもらうこと
- ・内容＝英語で日本文化や歴史について説いている

▽その結果……

その意図は実を結び、それらの著書は多くの読書を獲得し（特に新渡戸の『武士道』は日露戦争後アメリカでベストセラーとなる）、今日に至るまで読み続けられている。

**【後の二つの設問要求に応えていくことに関連する情報】**

▼1（課題文が出版された時代と比較した）日本が置かれている状況……

日本から世界各国へと発信される情報は格段に増えたが、日本についての理解は深まつたとはいえない面もあり、むしろ誤解がひろがっていると言わざるを得ない面あり。

▼2（▼1のような状況にあることを踏まえた上で）出題者の問題提起……

一〇〇年前に新渡戸や内村が語ったような熱意と説得力で、私たちは国際社会に対して語りかけているか。

↓つまり、出題者は、国際社会に対して、熱意と説得力を持つて「語りかけ」させたいという意図を持つていて

▼3 「何を、どのように、誰に」語りかけるか……

(1) 何を？↓現在の日本がいかなる国であるのか

(2) どのように？↓歴史を踏まえつつ、優れたところや悪いところ、問題点、これから展望などについて、必ず具体的な事例（人物、事件、流行、都市、環境、経済、技術など）に即して説明するように

(3) 誰に？↓外国人に対して（↑ただし、「新渡戸と内村は欧米の読者にむけて書きましたが、現在の世界では欧米の人だけに語ればよいというものではありません」と、暗に欧米以外の外国人を対象とするよう、条件をつけている）

## 【設問要求】

### 問1

- ① 語りかける相手の国の人々を選び、どうしてその国の人々にむけて書くのか、どのような意図で、何を主眼として書くのか説明する。

- ② 五〇〇字以内にまとめる。

### 問2

- ① （問1で書いたものに従って）その相手国の事情も勘案したうえで、その国の人たちに、日本について説明し、論ずる。
- ② その論述は、提示されていた（新渡戸・内村二人の文章である）課題文をよく読み、自分なりの発想と語り口で、自由に書く。

- ③ ただし、新渡戸と内村の文の要約や解説、引用はしてはいけない。

- ④ 冒頭に語りかけた国の名前を明記する。

- ⑤ 一〇〇〇字内でまとめる。

## 3

### 設問分析……効率的に取り組むために

前項「2 設問文」で見てきたように、非常に長い設問文があり、次いで二つの課題文（新渡戸と内村の文章）が提示されているので、君たち受験生にとってかなり手強い課題であるかのように見えるかもしれない。しかし、長い設問文は、どのように課題に取り組み、どのように論述を作成していくべきなのか、具体的ヒントや手順が親切に示されている……とみなすことができる。だから、それらのヒント・手順を、設問文から分析的に読み取り、整理していく。また、出題者の意図（＝どのような力をチェックする狙いを持つからこそ、何をどのようにさせたいのか）から外れていいない答案を作成するよう、設問文からそれを把握していくよう心がけたい。そしてそれらに従つて取り組んでいけばよいのである。

また、複数の問題が設定されている時は、（前の問題が後の問題に取り組む上での手がかりとなる等の）関連性を必ず持つので留意

意して取り組んでほしい。以下、設問文を分析的に読み、見えてきたものを整理しておく。

## □1 出題者が今の日本に対して持つ問題意識

現在の国際社会の中で、日本から世界各国へと発信される情報は増えたが、日本についての理解は深まっておらず、むしろ誤解が拡大している。そうした状況は、「私たち」（＝現代の日本人）が、一〇〇年前の新渡戸や内村の語ったような熱意と説得力で、国際社会に対して語りかけていないから生じている（のではないか）。

## □2 □1の問題意識に基づいた 出題者の意図

(1) 国際社会に対して、現在の日本について、熱意と説得力を持つ形で（誤解が拡がらないように）語りかける（説明する）ことができるコミュニケーション能力が不可欠。そのコミュニケーション能力のチェック。

↓そのコミュニケーション能力とは……【問1及び問2の設問文から具体的に理解できる点】

①一方的に自分の語りたいことを語るのではなく（＝一方向的なコミュニケーションの仕方ではなく）「相手」側の事情や、語りかける相手と語る自分との関わりを勘案（考慮）しながら、目的に従って、何を主眼として、何を伝えるのかあらかじめ考え、その意図や目的に沿った適切な語り口・語り方で語ることができるか。

(2) （国際社会において、日本について誤解されていたり理解が深まっていない面とは具体的にどういうところか……という視点を持つて）「現在（現代）の日本」を対象化或いは洞察する力が不可欠。その洞察力／対象化する力のチェック。

↓その洞察力／対象化する力とは……【設問文から具体的に理解できる点】

②歴史を踏まえつつ、優れたところや悪いところ、問題点、これから展望などについて、具体的事例（人物、事件、流行、都市、環境、経済、技術など）に即して、外国の人々の視点を意識し、「現在（現代）の日本」がいかなる国であるのか、その本質等を鋭く見抜く力。

### □3 問1と問2の関連性

問1＝問2【日本についての説明・「語り」・アピール】をうまく行うための準備をする場。問2の趣意書あるいは趣旨説明書的な文章。

問2＝問1で書いたことに沿って、自分なりの発想と語り口で、日本についての説明（語り・アピール）。

### □4 実際の手順

【手順一】提示されている二つの課題文をよく読み、（その文の要約や解説、引用をするつもりではなく）「誰に、何を、どのように」熱意と説得力を持つて語りかけているのか、参考にする（つまり、自分なりに「語りかけ」を行いう際の発想や語り口（語りかけ方）を考え工夫していく上での参考資料とする）。

【手順二】問1に答える。

【手順三】問2に答える。

### 4 問題へのアプローチ

【手順一】提示されている二つの課題文をよく読み、（その文の要約や解説、引用をするつもりではなく）「誰に、何を、どのように」熱意と説得力を持つて語りかけているのか、参考にする（つまり、自分なりに「語りかけ」を行う際の発想や語り口（語りかけ方）を考えたり工夫していく上での参考資料とする）。

「新渡戸と内村の文の要約や解説、引用はしない」ように設問文で言われている。では、出題者が一つの課題文を提示している意図はどこにあるのか。おそらくそれは、君たち自身が、「現在の日本」について、外国の人々に、なぜ、どのような意図で、何を主眼として語るのか……という、「語る」際の語り口（語り方）・スタイルを自分なりに考え、工夫するまでの参考資料として提示される、と考えてよい。

\*二つの文章（新渡戸『武士道』・内村『代表的日本人』）に共通する情報

▽「語り」かけている相手は誰？→欧米の人々。

▽どうしてその人々に語りかけようとしたのか？

→当時の世界秩序を主導していた欧米諸国の人々が、十九世紀末に近代化がようやく軌道にのつて新興国家として頭角を現しつつあつたアジアの近代国家としての日本に対して、好奇心と警戒感を持っていたから。

▽どのような意図で語りかけているのか？→日本がいかなる国であるのかを欧米の人々に理解してもらうため。

\*二つの文章の相違（＝独自性）

▽何を主眼として、どのように語っているのか？

↓1 新渡戸稲造『武士道』では……日本の近代化を推進した力としての「武士道」を主眼として語っている。そしてその「武士道」を、一面的に捉えるのではなく、日本人の長所／短所両面に関わるものとして、捉えている。そして、それを具体的に語るために「書生」の存在を素材にしたり、学生ストライキの具体的エピソードを素材にしているスタイル。日本人の国民全体の折り目正しさ・（日清戦争において証明された）忍耐・不屈・勇気等の長所日本人が深遠な哲学を持ち合わせていないこと・感じやすく激しやすい日本人の性質や尊大なまでの自負心の原因である行き過ぎた名誉心などの短所。↓これらの長所や短所は、「武士道」に関わるものとして語られている。

2 内村鑑三『代表的日本人』では……十九世紀初頭の日本農業と、それに関わった二宮尊徳という具体的な人物の紹介を主眼としている。十九世紀初頭の日本（國家）存立の大本としての農業に従事し、「自然」の法に従う者として、忍耐・信念・

勤勉をもつて荒地を沃地に変えようと努力したので、その努力の報酬として富（かなりの資産）が得られるようになった姿が語られている。

真の独立人であり、何事も自分で克服し、困難を自ら考え何とか乗り越えていく勤勉な人間像。十九世紀初頭の日本が直面していた課題としての「農業」。それに従事していた有名な人物としての二宮尊徳を語ることにより、日本人像や日本社会を紹介するスタイル。

「現在の日本」について、君たちが実際に、何を主眼としてどのように語るかに関しては、提示されていた二つの文章から具体的に参考にできる点はかなりあるようだ。欧米の人々に対しても、当時の日本がいかなる国であるのかを理解してもらうために、近代化を推進した力としての「武士道」（日本社会や日本人のあり方の土台となっている精神）に焦点をあてつつ、日本人の長所・短所の両面を、具体的なエピソードをまじえて語っていくスタイル（新渡戸の文章）も語り方の一つのスタイルとして参考になるだろう。また、当時の日本が直面していた課題である「農業」と、それに従事していた二宮尊徳という人物を詳しく具体的に紹介する形をとりつつ、忍耐強く勤勉に困難に立ち向かっていく日本人像を印象づけようとするアピールの仕方・スタイルも応用できよう。

### 【手順二】問1に答える……問2【日本について自分なりに説明・「語る」（1000字）】をうまく行うための趣意書あるいは趣旨説明書的な文を書く

この問1で与えられている五〇〇字は、問2で実際に「外国人に、自分なりの発想と語り口で、現在の日本について説明し、論じてゆく（＝語つていく）」ことがうまくできるための準備作業（あるいは計画）であると考えて取り組みたい。

スピーチや研究発表、あるいは企業での企画提案など、人前で、何か自分自身の考え方今まで調べてきたことを発表（プレゼンテーション）しなければならない時には、実際にそのスピーチ原稿や発表することの内容を文章化する前に、スピーチや発表がうまく相手に伝わるように、その趣意（ある事をしようと思いついた動機や目的・言おうとしていることの本来の意味）や趣旨（何のためにその事をするかという目的・狙い・言おうとしている事柄）を、（スピーチや発表をする本人）自身、あるいはそれを聞いたり読んだりして評価する側のために文章化することがある。この問1の五〇〇字はまさにそれだと思つて取り組めばよいだろう。

## 【問1の論述に必要な要素の確認】

(1) 語りかける相手の人々を選び、明確に示す。

問1・問2の前の設問文に「新渡戸と内村は欧米の読者にむけて書きましたが、現在の世界では欧米の人だけに語ればよいといふものではありません」とあつたことを考慮すれば、出題者が「日本から世界各国へと発信される情報量は格段にふえ」たけれど、それが欧米諸国に偏っている点を問題だと認識しているのではないか……とも推察できよう。故に、できる限り「欧米」ではなく、あまり「日本についての理解が深まっていない」「むしろ誤解がひろがっていると言わざるをえない」関係にある国を具体的に想定するとよいだろう。そうした国々とはどういう国かといえば、「日本」がその国に向けて情報発信していなかつたり関心をあまり持つてこなかつたという事情がある国や、人々（過去の歴史的背景等から）十分「理解」し合えるような関係になかつたり、そうした関係にあるからこそ最近も何らかのトラブル・問題が日本との関係において浮上している国々を具体的にイメージしていくばよい。

そうした国々が具体的に想定できたら、その中で、（他の国々より）関心や知識がある国や、その国と日本との関係において生じている問題やトラブルについて「特に今、考えてみたい」というものがあれば、その国を選べばよい。あるいは、「現在の日本」がいかなる国であるのか、日本が今直面している解決すべき問題点や日本のこれから展望を考えいく上で、考慮しなければならない（欧米以外の）外国とはどこか……ということを考えて、どの国を選択するか絞り込むという方法でもよいだろう（→次の(2)・(3)と関連）。

(2) どうしてその国の人々にむけて語るのか（書くのか）説明する。

これは、自分が語りかける相手の国として、どうしてその国を選択したのか、その理由を具体的に説明することが要求されないと考えればよい。数ある諸外国の中から、どうして今、自分はその国に語りかけ、日本に関して情報発信しなければならないと考えるのかをわかりやすく説明すればよい（→(1)・(3)に関連）。

(3) どのような意図で語るのか（書くのか）説明する。

「語りかける」「話しかける」（情報を発信する）というコミュニケーションには、何らかの目的がある。目的のないコミュニケーション活動などない。自分の存在に気づいてもらいたいから話しかけることもあるし、自分のことをより深く理解してもらいたいから、今まで以上に多種多様な情報を発信しようとする場合もあるだろう。また、ある人と（何らかのトラブルによつて）疎遠になつてしまつていているために、その関係を修復したいという意図を伝えるために、こちらからあえて話しかける場合もあるだろう。さて、あなた自身は、その「語りかける相手国」として選択した国やその国の人々に対して、どういう意図を持つて語りかけたいのだろうか。それを言語化し説明したい。それには、日本とその国の関係が今、どのような状況にあるか、歴史を踏まえ、また最近の出来事や国際情勢等も具体的に知つているとよい（というより、その国と日本との関係に関して多少知識がなければ、(2)・(3)は説明しにくいだろう）。

(4) 何を主眼として語るのか（書くのか）説明する。

語りかける相手の国に、現在の日本がどのような国であるのか、また、日本のどういう面を語るのか……をあらかじめ決めてから語りかけたい。その「何を主眼として語るのか」は、かなり具体的に（問1・問2の前の設問文に）指示があつたので、それを参考にすればよい。

\* (1) 「現在の日本」の優れたところ／悪いところのいずれに焦点をあてたいのか。それとも両方ともバランスよく語りたいのか。

\* (2) 「現在の日本」の直面している問題点の中で、どういう問題点に主眼をおいて語りたいのか。

\* (3) 日本の「これから展望」→日本のどういう分野の、明るい展望／暗い展望のいずれに焦点をあてたいのだろうか。

この\*(1)～\*(3)などについては、必ず具体的な事例（人物、事件、流行、都市、環境、経済、技術など）に即して、外国人に對して説明するよう指示させていたので、その指示に従う形で語り（説明し）たい。

【手順三】問2に答える……問1で書いたことに従つて、自分なりの発想と語り口で、日本について説明する（語る）

この問2で与えられている一〇〇〇字は、問1で作成した五〇〇字の「現在の日本」について語る（＝説明する）ための趣意書・趣旨説明書のようなものに従つて、実際、自分なりの発想や語り口で自由に「語る」つもりで書いてよい。ただし、自分自身で決めたこと（＝語りかける相手の国の人々に、どのような意図で、何を主眼として語るのか等）がその通りうまくできていると「読み手」に評価してもらえるよう、くれぐれも問1で書いたことに沿つて、語つて（論じて）いきたい（→この問2の設問に改めて「その相手国の事情も勘案した上でその国の人たちに、日本について説明し、論じてもらいたい」と要求されている点にも留意したい。とにかく「現在の日本」について一方的に語ればよいわけではなく、語りかける「相手国」やその国の人々がどのような状況にあるかも考慮し、それによつて語る内容や語り方もふさわしい形で……ということだ）。

なお、「みなさんなりの発想と語り口で、自由に書いて下さい」とは、受験小論文に取り組む上での従来の固定観念・枠組み（「であります」調ではなく「である」調で書く、というような）にこだわる必要はない、ということだ。もちろん、設問文にある指示（条件）を無視せず、出題者の意図から外れず問われていることにしつかり応え、「読む」側（＝評価する側）に読みやすいものであることは重要だが、外国の人々に実際に「語り」かけるつもりで表現するならば、従来通りの堅苦しい論文口調の文章をとる必要はない（というより、むしろ、各自、自分なりの発想やコミュニケーションの仕方に基づいて、独自の「語りかけ」の方法やスタイルを工夫してみたい）。例えば、「相手の国」の人々の中の誰か特定の一人に手紙で「語り」かけるスタイルでもよいだろうし、詩や歌詞の形をとつて書いてみる……というスタイルも、許容されよう。

## 【添削課題】

出典：愛媛大学・教育・99年

## 解答

「共有地の悲劇」とは、有限な共有資源がそれを使用する個人の自由な利益追求行為の集積の結果、枯渇・破壊される事態である。この事態が発生するのは、その行為により得られる利益は個人が独占できるが、その弊害による不利益は、資源を共有する全體に分散されると考えられるからだ。つまり皆が「自分一人ぐらいは」と個人の利益を合理的に計算し行動しても、それが集団全体となれば結局、皆が損をするという不合理な結果に繋がる。

例えば、ある自然公園の片隅に、ルールを無視して粗大ゴミを捨てた個人がいたとする。その心理には、粗大ゴミを正規のルートで処理することに対し、「手続きが面倒で経済的にも負担」というコスト感がある。それに比べ、公園に密かに放置することは、他人に見つかねばコストは少なく目的を達成できる。だがその「自分一人ぐらいは」という心理と行動は、公園という公共財を、本来の目的とは全く違った意味で悪用し、別の個人の同様の行為を誘発する。そしてその公園の自然は破壊され、土壤は廃棄物により汚染される。その被害及び公園の再整備にかかる経済的負担は、その公共財としての公園に関わる人々全體にかかる。

こうした事態が頻発し、なかなか防止できない理由の一つは、社会の流動化だと考える。人口の流動化が顕著な現代社会では、自分の住むコミュニティへの帰属意識が希薄で、そのコミュニティ全体の利益に反する行為をしても匿名性原理が働く。見つかることもない。しかし、長期間同じ集団の中でのメンバーや同士互いにあらゆる面で協力し合って生きていかざるを得ない伝統的共同体であれば、その全体への非協力的行為は、発覚すれば村八分にされ不利益に繋がる。

だが、現代を以前の伝統的社會に戻すことはできない。では、現代において、その事態発生を抑止するにはどうしたらよいか。伝統的社會の緊密な人間関係が抑止の役割を果たしたように、それに代わるシステム構築が必要となる。先の例で言えば、「自分一人ぐら

いは」という心理による反社会的行為が発覚したら、「割に合わない」と各個人が実感する罰則が課され、そうした不届き者が発見されやすい公園管理システムをつくる。つまり、個人は利己主義的行動に流れやすいという点を理解し、そうした個人が全体の利益に協力しやすい制度を考えるべきなのだ。

## 解説

### 1 出題意図

今回扱うテーマは地球環境問題である。このテーマは、社会科学系・人文科学系・自然科学系を問わず頻出である。そうした現実を踏まえれば、このテーマに関して最低限知つておくべきことがテキストにまとめられているので、それをしつかり読み学習しておこうことが望ましい。また、このテーマの最近の特徴として（以前は、この問題に関する国際的レベルの対応が、南北間の利害対立ゆえに解決困難となっている点に着目した出題が多くなったが）、「環境問題は、『個人』の心理・行動が集積されたものであり、その個人の意図とは異なって生み出された『社会』現象である」という認識に基づき、「個人」と「社会」の関わりからこの問題を分析・考察させようとする意図を持つ出題が目につく。本課題は、こうした出題意図を持った課題の一つである。

本課題に取り組むことにより、今、社会的に問題となっている社会現象（それは必ずしも環境問題に限らないが）の中には、<sup>\*</sup>個人（またはある集団）が私的利益を追求しようとした行為の集積が、いつのまにか社会全体に望ましくない（公益に反する）結果をもたらす「共有地の悲劇」的現象である、ということに気づくかもしれない。本課題に取り組んでもらう意図はそこにある。

\* 環境問題に限らず、このように、社会（あるいは集団）に属する成員全体としてはこうすれば良い……とわかつていながら、誰も自分から進んでそうしなかつたせいで、社会（集団）が全体として自分達の首を絞める結果に陥るような悪循環・現象を「社会的ジレンマ（Social Dilemma）」問題と言う。これは社会学・社会心理学・経済学・政治学（特に公共選択論）等の社会科学系の研究テーマでもある。

- ① 課題文を読む。
- ② 「共有地の悲劇」について論じる。
- ③ (②の論述には) 具体例を挙げる。
- ④ (②・③を) 八〇〇字から一〇〇〇字以内にまとめる。

### 3 設問分析

本課題において、特に力を入れて応えるべき要求は、「『共有地の悲劇』について論じる」ことである。その要求に応えるには、まず、その「共有地の悲劇」と呼ばれる事態とはどのような事態なのか（例：こうした事態が発生する前提条件、その事態の何がどう問題なのか等）を、課題文から正確に把握する必要がある。

次いで、「論じる」とはどういうことか改めて考えたい。「共有地の悲劇」とはどういう事態なのかが理解できても、その事態及びその事態がなぜ議論すべき対象なのかという点に関して君達自身の考え方・見解等が述べられていなければ、「論じ」たことにはならない。またその「論じる」ことには「具体例を挙げる」という要求も付け加えられている。要するに、提示されていた課題文の中の具体例「牛の放牧地（＝共有地）の例」とは異なる「共有地の悲劇」的事態の事例を現実社会から発見し、それを素材として、その事態の何がどう問題なのか、その問題に関して何を自分は主張したいのか、どう主張する根拠とは何か……という議論を自分なりに組み立てることが求められている、と考えられよう。

以上から、本課題には、次のような手順を踏みながら取り組むことが効率的と思われる（もちろんこれが全てではない。各自が取り組みやすい方法で取り組んでかまわない。ただ、受験本番では、限られた時間の中で答案を完成しなければならないので、課題文の長さやその難解度、要求事項、論述字数、制限時間等を総合的に判断しつつ取り組む力が必要とされる……ということも認識しておきたい。ちなみに本課題は一〇〇分対応の課題である）。

### 【本課題に取り組む手順】

**手順一** 「共有地の悲劇」とはどういう事態なのか、課題文の正確な読解作業に基づき把握する。

**手順二** 「共有地の悲劇」について、課題文中の例とは異なる具体例を挙げつつ論じる（どう論述するか構想を練る）。

→ 「共有地の悲劇」的事態の何がどう議論されるべき点なのか、その論点に対しても自分は何を特に主張したいのか、その根拠とは何か等、議論の骨子となる点を考える。

→ その議論を展開していく素材として妥当な、独自の「共有地の悲劇」的事態の事例を現実社会から発見・分析し、論述に盛り込む。

**手順三** 答案を作成する。

#### 4 問題へのアプローチ

■手順一 「共有地の悲劇」とはどのような事態なのか、課題文の正確な読解作業に基づき把握する

##### ① 課題文の内容・論理構造

###### A 論点提示・筆者の基本的考え方（第①段落）

論点（議論の対象）……「共有地の悲劇」というべき事態＝有限の共有地が（人間の）自由な欲求充足により崩壊させられる事態。  
筆者の基本的考え方……地球＝人間にとつて有限の共有地

人間＝その共有地で欲求を充足しようとする存在であり、その自由な欲求充足により時として共有地そのものを崩壊させる。

###### B 論証（分析）（第②段落～第⑤段落）

生物学者ハーディングの「共有地の悲劇」の寓話から描き出される議論の対象となる事態の分析。

- ・共有地……牛の放牧地として誰でも自由に放牧可能。この共有地を勝手に売り払うこと以外には何ら制約なし。
- ・共有地の利用者……牛を放牧して生活する牛飼い。
- ・その共有地に生ずる問題……共有地が過放牧となり荒廃すること。

↓【その問題が生ずるプロセス】

- (1) 多くの利益を求める牛飼いがより多くの牛を放牧する行為をとる。
- (2) (環境容量を下回る限り) その放牧地が利用可能な状況を維持できる限度を超えない限り問題ないが) 牛飼い達が (自分の) 利益を求め際限なく、放牧する牛の数を増やしていく。
- (3) その結果、共有地は利用不能なまでに荒廃。

・ハーディンのその問題に対する見解

↓牛飼い達がその共有地を自由に利用できる限り共有地の荒廃を防止することは不可能。

理由一=牛飼いは、自己の利益を最大化しようとする。

理由二=そうした牛飼いは以下のように考え合理的な選択を行う。

①牛を一頭増やすことにより得られる収益は全て自分のものとすることができる (=利益の独占)。

②他方、牛を一頭増やすことにより共有地が過放牧になつても、その被害は全ての牛飼いに分散される (=不利益の分散)。だから被害は受けんとしてもわざか。

つまり、牛一頭増やすことによる収益(利益)・被害(不利益)を勘案し、合理的な牛飼いは牛一頭を増やすことが唯一利益にかなつた方法だと結論付ける。しかし、こう結論付けるのは共有地を利用するあらゆる牛飼いである。「自分の牛くらいはなんとかなるだろう」と考える牛飼いが放牧しつづければ、結果として、悲劇的結末を迎えることになる (こうなることが分かつていながらも牛を増やすことを止めることはできない)。

C まとめ (結論) (第⑥段落)

共有地の破壊 (悲劇) とは……

共有資源を消費できる一人一人(個人)が、合理的な計算に基づいて自己利益を追求することにより、それが集積した結果として生ずる集合的不合理である。そしてこの集合的不合理から、当の合理的個人も逃れることはできない。

\*合理的な計算=共有資源の消費拡大による利益は個人が占有できるが、こうした行為から生ずる共有資源減少という被害(不利益)は全ての成員に分担(分散)されるゆえ、集團の個々の成員にとっては、消費拡大とともになう個別の利益の方

が共有資源減少による個別的損失より大きいと考え、合理的選択として消費を拡大。

→要するに「自分一人ぐらい……」という心理は個人レベルで見れば「合理的」だが、それを集団レベルで考えていない。

全てのメンバーがそう考え資源を消費し続けることによる結果は考えていない（→集団的不合理）。

② 「共有地の悲劇」とはどのような事態なのか、ポイントを押さえる。

課題文がなぜ提示されているのかその意図を推し量れば、まず、課題文の内容に基づいて、「共有地の悲劇」とはいかなる事態なのかポイントを踏まえることから論述を始めるのが無難だろう。課題文を読解すれば明らかのように、その内容は「共有地の悲劇」という事態がいかなるものか、ハーディングの寓話に従って説明・定義したものである。それゆえ、課題文を正確に読解しその定義に基づいた独自の事例を挙げるためにも、本課題で議論の対象とすべき「共有地の悲劇」を定義するポイントをしっかりと押さえよう。以下、簡単にそのポイントを整理しておく。参考にしてほしい。

【「共有地の悲劇」とはどのような事態なのかを説明・定義するポイント】

- (1) その事態の概要……有限な共有資源（例：共有地）が、それを使用する人間の自由な欲求充足（自己利益追求）行為の集積した結果として枯渢・破壊するといった事態
- (2) その事態発生に関わる個人の「合理的計算」とその結果……
  - ・個人の自由な欲求充足（共有資源の消費）による利益は独占されるが、その弊害（共有資源の減少という不利益）は集団（その共有資源を使用する成員全体）に分散する。それゆえ、個々人が「得られる個別利益の方が、被る個別損失より大きい」と判断し、合理的選択としてその共有資源の消費拡大。
  - ・その合理的計算を成員全体が行うことの集積→集合的不合理（共有資源の破壊・枯渢）
  - ・その集合的不合理（＝困った結果）からは成員全体が逃れられない。

■手順二 「共有地の悲劇」について、課題文中の例とは異なる具体例を挙げつつ論じる（どう論述するか構想を練る）

① 「共有地の悲劇」的事態の何をどう議論されるべき点なのか、その論点に対し自分は何を特に主張したいのか、その根拠とは何か等、議論の骨子となる点を考える。

「設問要求」「設問分析」でも述べてきたように、本課題で最も力を入れて応えるべき要求事項は、「『共有地の悲劇』について（自分の考えを）論じる」ことである。要するに、論すべき対象（＝「共有地の悲劇」という事態）は予め指定されているのだが、特にその事態のどの部分に焦点を当てるのか（論点をどう絞り込むのか）は、君達自身にまかされているということだ（言い換えれば、その論点の絞り方に、君達のものの考え方や発想力等の個性・独自性が發揮されよう）。

まず、次の②の作業（課題文中の例以外に、独自の「共有地の悲劇」的事態の事例を現実社会から探し出す）をして列挙される現象に共通することは何かを、よく考えてみるとよい。この「共有地の悲劇」といった事態（現象）の何が一番問題なのかも、「一人一人の個人が自分の利益を追求することにより（＝自分勝手な行動をとることにより）、結局は互いに迷惑を被る（＝損をする）」という点であることに気づいただろうか。

#### →【考えるヒント1】

・「共有地の悲劇」の事態の一番困った点は、「個人の自由な利益追求行為の集積が、集団（社会）全体に不利益な結果をもたらす」という点であることに気づく。

それに気づくと、当然、「ではその個人の自由な利益追求行為をやめ、集団全体に不利益が被らないようにする方法を考えればよい」ということになるが、その方法はそう簡単に発見できるのだろうか。よく考えてみたい。その集団（社会）に属する成員（メンバー）全体が一斉に自分勝手な行動をやめれば、一見自分の利益は小さくなるが、最終的には「自分で自分の首を絞める」ような非合理的な結果を招く馬鹿げた行為はなくなり、この世の中からこうした事態は消えるかもしれない。

しかし現実には、道路や公園などの公共の場（公共財）での空き缶のポイ捨てや、路上駐車といった問題は、そう簡単には解決されていない（君達自身にも身に覚えがないだろうか）。既に空き缶やゴミが散らかっている公共の場で「みんながやつているのだから」「こんなに散らかっているのだから自分一人ぐらいががんばってもどうにもならない」と考える（自分の利益・不利益を合理的に計算する）のが常である。要するに、我々人間が生きる現実社会は、ある個人とある個人、また、個人と社会全

体との利益の葛藤や調整なくして考えられない。そういう側面を考慮せず、「みんなが全体の利益を考え、自分勝手に行動しないようにすれば、『共有地の悲劇』は起こらないようになる」と述べても、非現実的な綺麗事にすぎない。

#### ↓【考えるヒント2】

- ・人間の生きる現実社会は、個人間、個人と社会の間に利益の葛藤があることを認識して、安易に「各個人が全体の利益を考えれば、こうした事態はなくなる」といった結論を導かない。
- ・そうした現実の中で、どうすれば一見個人に不利益な行動であっても全体の利益になる行動を選択してもらえるようになるのか、具体的に考える（例・個人の心構えのレベルで解決するのだろうか→社会制度・公権力による規制等の模索）。
- 最低限、こうした点は考え方一つ、君達なりにこの「共有地の悲劇」の事態の論すべき点を明確にし、それに対する主張・見解を論拠を提示しつつ論理的に導きたい。

②

議論を展開していく素材として妥当な、独自の「共有地の悲劇」的事態の事例を現実社会から発見・分析し、論述に盛り込む。「■手順一」で課題文の正確な読解から踏まえた、「共有地の悲劇」の定義に適う事例であれば、本来、どのような事例でもよいのだが、今回は「環境問題」について学ぶという目的があつたので、できるだけその目的に合った事例を選択（発見）・分析し、論述に盛り込みたい。なかなか独自の事例を思いつくことができなかつた人のために、いくつか事例を挙げておく。

#### 【「共有地の悲劇」の具体的事例】

- ・漁業資源や絶滅動物（や希少種の）乱獲
  - ・化石燃料の無計画な採取・消費
  - ・地球温暖化
- （↓「個人」＝フロンガスを使用したスプレー使用、排出される排気ガスに無頓着な自家用車使用、過剰なエアコン使用等  
↓こうしたことにより「個人」は利益（利便性・快適性）を得るが、皆が一斉に同じようにすることで全体が不利益  
↓地球温暖化→不利益＝異常気象による弊害（例・食糧生産への影響）など）

- ・紙や割り箸等の乱用による森林破壊
- ・積雪量の多い地域でのスパイクタイヤ使用による粉塵問題
- ・ゴミを捨てることが許可されていない場所へのゴミ廃棄問題  
(身近な例として→粗大ゴミの指定場所以外への放置・廃棄問題)

### ■手順三 答案を作成する

「■手順一」「■手順二」で考えたことを、一〇〇〇字の指定字数の中はどう展開していくか、構成を練った上で答案作成に取り組みたい。その際、設問要求全てに応じているか、小論文の基本要素が入っているとみなされ得る論述か（論点・主張は明確か、論理的に矛盾はないか）等、自己チェックしつつ、答案を完成させよう。



T3M  
慶大小論文



会員番号	
------	--

氏名	
----	--